

未来

郵政産業ユニオン
PIWU

全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙・「みらい」
NO. 4130
21年3月2日(火)
Tel・Fax 095-828-1953

郵便屋さんを殺して 近代オリンピックの マラソンは始まった？

おはようございます。

日本マラソン界にとつて夢の大記録が生まれた。二八日(日)のびわ湖毎日マラソンで、鈴木健吾(富士通)が二時間四分五十六秒の日本記録をうちたてた。この日は高速レースで、実に四一人が二時間一〇分を切った。いくら高速シューズのおかげとはいえ、走るの人は人である。大記録はやはりすごい。あっぱれ。

ちなみに途中まで先頭を走った三菱長崎の井上大仁(鎮西高校、山梨学院大)は二時

間六分四七秒で四位となった。長崎からみでいうと同じく三菱の新人の山下一貴(瓊浦高校、駒沢大学)は初レースながら二時間八分一〇秒で十八位となった。これも日本記録である。今後が楽しみです。

ところでオリンピックの華であるマラソンの起源では、紀元前四九〇年の第一次ペルシヤ戦争に勝利したアテネの兵士が、マラトンの丘からアテネまでの四二キロを走り続け、「わが軍勝てり」と叫び、息絶えた、ことを故事の由来とする。(広辞苑にもあるから、俗説とはいえず、史実か?)。

しかし、この同時代を生きて、世界最古の歴史書「歴史」(全九巻)を書き、歴史の父といわれるヘロドトスは、オリンピックのことを十二カ所も言及しているが、このことを書いていない。ペルシヤの大軍が五千隻の船でギリシヤの都市国家を攻めた。アテネ

軍はマラトンの丘でこれを迎え撃つ。しかしペルシヤの大軍を前にアテネには勝てそうもなく、司令官は、百キロ離れた隣国のスパルタに援軍を求めするために、一人の兵士に伝令を命じる。

その兵士はピリッピデスといい、飛脚(郵便屋さん)を業とする健脚家であった。彼はスパルタへ走りぬぎ、伝令を伝えるが、スパルタ軍は月の満時は兵を動かさずとして、一日遅れで出陣した。この二



日間の内に、マラトンの丘ではアテネ軍の反撃で、ペルシヤ軍を打ち破る。予想外の戦争となっていた。

するとペル

シヤ軍は残りの軍船で敗走すると思いきや、逆にギリシヤの都市・アテネに向かって、軍船を向ける。このままではアテネの町は攻撃される。そこでアテネの大軍は、マラトンの丘から陸路の四十キロを重装備のまま走りぬぎ、ペルシヤ軍よりも早くアテネに戻り、町と市民を守った。

その後、スパルタは二日遅れで応援に到着するが、戦争は終わっていたと、「歴史」に

は書いてある。したがって、伝令に走ったピリッピデスは「我軍が勝てり」と叫ぶ必要もなく、絶命もしていない。「歴史」巻六の一〇五節)。

これが現存する世界最古の歴史書のマラトンの戦争の記述文である。いつの間に、伝令のピリッピデスが、息が絶えたのだろうか。ギリシヤ、アテネのペルシヤとの戦争は数回あつており、別のときかもしれないが、しかし、ネットでも走つたのはこのピリッピデスとあるから、この起源前四九〇年の第一次ペルシヤ戦争だと思ふ。

ともあれ、近代オリンピックの始まりのとき、この伝令(飛脚)の絶命で、劇的な競技としてはじめてではないか、とも思ふ。無論「歴史」も「伝承」が多いとされるから、史実は不明だ。

マラソンの勝者にはオリブの枝の冠を飾るが、これも「歴史」にある。ペルシヤに投降した一部のギリシヤ軍の兵士に、ギリシヤ軍の現状を聞いた。兵士は「今ギリシヤはオリンピア祭の最中だ」と答える。ペルシヤ人は「その競技の商品は何か?」と聞く。ギリシヤ人は「オリブの枝の冠が与えられる」と答える。

この答えのように、オリンピックの商品は金品ではなく、名誉であつたそうだが、それも最初だけで、終わりころは腐敗が進み、賄賂とか、いかさまとかがあつたともいう。



そもそも古代オリンピックは、紀元前七七六年に第一回を開く。動機はギリシヤの神ゼウスに、感染症の絶滅を祈願するための祭祀として始まつているが、以降、二九三回を数え、西暦二九三年に終わっている。

終わったのは、ローマ帝国がギリシヤを支配し、キリスト教以外の神を異教として、これを許さず、ゼウス神がらみのオリンピックの中止や祭礼所も破壊の憂き目となる。(「オリンピア」ちくま文庫)しかし古代オリンピックの歴史は一一六九年の長きにわたりに続けられた。恐るべし、古人だ。

それと比べ、近代オリンピックは一八九六(明治二九)に始まり、一三五年しか経っていない。歴史といえる年月でもなく、平和の祭典としてのオリンピックも開催も諸事情で問題が多発している。そ

れもこれも腐敗と利権にまみれているからだ。商業主義も開催を難しくしている背景だが、古代もそれはあつた。ギリシヤでもオリンピックの勝者はさまざまな特権を与えられており、腐敗の温床となつていた。これも「歴史」によれば、ある優勝者が反乱軍に加わり、戦に負けるが、優勝者だということでの命の保証を得るが、この人たちがさし、当時のアテネ市民は彼らを「穢れの人」と呼んだ、と書いてある。今も昔も利権のオリンピックである。

直近ではJOCの森前会長の女性蔑視発言での辞任問題だが、最初がIOC理事で元皇族の竹田は金の疑惑で辞任したし、東京オリンピックを招致した前の都知事も金まみれで知事を辞職した。

東京オリンピックはコロナ禍では中止が正しいと思うが、利権がらみで、やめられないのだと、週刊・金曜日で、幾人も人が指摘している。ワクチンが間に合い、感染者もいない世相でない、オリンピックはやめるべきだろう。なぜか。国や経済よりも、人の命が一番だからだ。それにしてもクーベルタン?、勝手に郵便家さんを殺すな。(怒怒・・・笑)

期間雇用パート労働者の皆さん! 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1集-海江田, 2集-向井, 3集-山田, 支部・分会の役員へ。

中間と競争せよ、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望を主眼の正社員化を。

ゆれば、均等賃金、なげんき差別。

ユニオンは労基法裁判に勝利をねん。